

# 特集 障がいのある人が自分らしく輝ける社会に

障がいのある人が社会活動に積極的に参加できる社会を実現するための支援に「生活介護」と「就労継続支援B型」があります。今回はそれぞれの支援を行う市内の事業所を紹介します。

問 障がい福祉課 TEL (31)3711・FAX (33)4877

ホームページはこちら



## (福)ことぶき ディーワークス

お問い合わせ TEL (37)2260 〒 523-0013 長光寺町 894



焼き菓子を袋詰めする利用者

### コンセプト 1

利用者にとって、大切な毎日働く工場

## Daily

ディーワークスは、主にパンや焼き菓子、名刺などの簡易印刷物を製作・販売している、「生活介護」と「就労継続支援B型」を合わせた事業所です。昭和55年に前身の「ことぶき共同作業所」が開所して以来、40年以上の歴史があります。平成30年には就労継続支援B型専門の第2ディーワークスも開設しました。現在は2つの事業所を合わせて利用者46人、支援員28人が働いています。

今回は、その施設名「ディーワークス」に込められた「3つのD」のコンセプトを基に、浅見明所長にお話を伺いました。

ディーワークスでは、どれだけ重い障がいのある人も、軽作業などを通して得られる「働く喜び」を大切にしています。単に作業をするというのではなく、企業の一員として日本の経済や社会の一翼を担っているという気持ちを持って「働く」

ことが、利用者にとって大切だと考えているからです。

### コンセプト 2

スタッフにとって、利用者の発達保障を実現する事業所

作業内容ごとに、利用者の障がいの種別や程度に適した「治具」を支援員が立案して作り、本人の持つ「働きたい」という思いを大切に支援しています。また、創作活動や個々の機能回復訓練などにも取り組み、利用者の「生きがい」や「豊かな生活」の実現を目指しています。



治具

部品を数えたり、布をたたんだりするなど、作業を手助けする器具。

### コンセプト 3

施設に関わる全ての人の夢を作りかえる場所

利用者の日中活動の場所を確保することは、2事業所の開所によっておおむね達成できたと考えています。

しかし、通所歴の長い利用者を中心に、高齢化に伴う障がいの重度化や重複化がみられるようになりました。その人たちにも快適に作業や日中活動をしていただけるように、施設の充実がこれからの課題です。

## Dream

## Development

### 支援員さんに聞いてみました



富江 真理さん

もともとデイサービスやヘルパーの仕事をしていて、障がい福祉に興味があったことが、この仕事を選んだきっかけです。仲間（利用者）はみんな優しく、日々楽しく仕事しています。商品が全部売れたり、できなかったことができるようになったりして、喜んでいる仲間の姿を間近で見られることが、私自身のやりがいですね。

仲間との関わりで注意していることは、何気ない言葉でも、相手の受け取り方が違うということです。善意で「大丈夫？ できる？」、「休憩していいよ」と言ったとしても、仕事をしたい仲間にとってはやる気をなくしたり、心を傷つけたりする可能性があります。また、コミュニケーションをこまめにとることも大切にしています。1日1回は一緒に働く仲間と声をかけようとしていて、笑顔で送迎の車に乗ってもらい、明日も笑顔で仕事に來てもらえることを目標にしています。

### ディーワークスで働く支援員さんに聞いた

#### この仕事のいいところ

- 1 笑顔からパワーをもらえる！  
仲間も支援員もみんな優しく、特に仲間の笑顔にはいつも癒やされています。子どもからも、「お母さん毎日楽しそう」と言われました。
- 2 お休みが取りやすい！  
業務体系が柔軟で、お休みに融通がきくことがうれしいです。
- 3 行事やイベントを楽しめる！  
仕事から離れてリフレッシュできるバス旅行やビンゴ大会は、仲間たちに大人気。私たちも一緒になって楽しんでいます。



田口 江利さん



田口 淳子さん

### 就労継続支援B型とは？

障がいや難病のある人のうち、年齢や心身の状態などから雇用されることが困難な人が軽作業などの就労支援訓練を行い、工賃をもらう形の福祉サービスです。

### 生活介護とは？

障がい者支援施設などで、入浴や排せつ、食事などの介護が常に必要な人に、その補助や生活の相談を行い、創作的活動や軽作業などの機会を提供したり援助を行ったりする福祉サービスです。



# (福)きぬがさ福祉会 きぬがさ作業所

お問い合わせ TEL (46)2646 〒 521-1311 安土町下豊浦 9019



## 利用者さんに 聞いてみました



**厚さ自由自在唯一の「紙すき職人」**  
羽田 秀之さん

一番最初から自分で紙すきの仕事を選び、それから20年くらい紙すきをしています。厚みの加減が難しく、慣れないとなかなか均一にできません。最初は苦労しましたが、今ではきぬがさ作業所で唯一の「紙すき職人」と呼ばれています。後継者を育てたいのですが、感覚的なことも多く、うまく伝わらないのが悩みです。うまく紙がすけたときや、作ったものが売れたとき、そして自分の作った紙をみんなに見てもらったことがうれしいです。



**みんなから頼られる、  
器用な「なんでも松澤さん」**  
松澤 喜久子さん

作業所では、梱包材づくりやお弁当の配達など、なんでもやってきました。一番好きなのは「さをり織り」で、30年くらい布やミサンガなどを作っています。自分で色を決め、さまざまな形のものを作れるところがいいですね。

きぬがさ作業所に最初から在籍していて、この前は勤続40周年を祝ってもらいました。この40年、仲間が増えたこと、作業所の場所が変わったり大きくなったこと、仲間のみんなで京都や蒲郡温泉に旅行に行ったことが思い出に残っています。もう少しコロナ禍が治まったら、また旅行に行きたいです。



## 事業所いちおし！手作りグッズ

### きぬがさ作業所



さをり織りの小物

ポチ袋

干支の置物

### ディーワークス



焼き菓子

手作りパン

### 理念1 ひとりぼっちの障がい者をなくそう

昔、障がいのある人は学校を卒業した後、働く場所がなく、家でもひとりぼっちのことが多かったそうです。自分らしく、安心できる居場所、自分が必要とされる居場所として、きぬがさ作業所は知的障がいのある人たち6人と職員1人がスタートしました。

### 理念2 「仲間が主人公」の実践

作業所内には「仲間の会」という組合があります。会長は選挙で決まり、所長に対して給与交渉や日常生活での要望を提出します。「ボーナス活動」と呼ばれる作業所全体の活動もあり、そこで得た売り上げがボーナスになります。その後の外出ではそのボーナスを使う機会が

きぬがさ作業所は、主に手芸品や陶芸品などを製造・販売している「生活介護」の事業所です。昭和57年に前身の「きぬがさ共同作業所」が開所して以来、法人内で最初にできた事業所として、きぬがさまつりや廃品回収など、地域とのふれあいを大切にして運営されています。現在は50代〜60代を中心に、18歳〜80代の利用者47人、支援者30人が働いています。今回は、その設立当初からの理念や事業所のコンセプトを基に、堀尾毅所長にお話を伺いました。

### コンセプト あなたの人生、共に歩もう

設けられ、自分で稼いだお金を自分で決めた使い方を使うという、ひとつの生活体験となっています。「二人の大人」として、私たちは障がい者の意思や自己決定を尊重して、そのための環境づくりや経験づくり、声かけを積極的に行っています。

法人内にさまざまな施設ができたため、新しく事業所のコンセプトを決めることになった際も、40年という歴史の中で、長く利用されている人が多いことから、自然と「人生」という言葉が出てきました。障がいのある人とその家族は、たくさんのおしんどさを抱えています。きぬがさ作業所ではそれらを受け止めて、関係者の人生を支えられるように成長してきました。これからも共に歩んでいけるよう成長していきたいです。



インタビューに答える 堀尾 毅 所長

どんなサービスが利用できるの？



自分ではどうしていいかわからない

障がいに関することや日常生活に不安・悩みがある人は、  
下記相談機関へ気軽にお問い合わせください。

主に精神障がい、発達障がいに関すること

地域生活支援センターふらっと  
TEL (32)2667 (平日 午前10時～午後6時)

主に知的障がい、発達障がい、身体障がいに関すること

東近江地域障害者生活支援センターサテライト近江八幡 (れいんぼうサテライト)  
TEL (32)8700 (平日 午前8時30分～午後5時30分)

全ての障がいに関すること

障がい福祉課  
TEL (31)3711 (平日 午前8時30分～午後5時15分)